

人文系（法学）

横塚志乃

大学院人文社会科学部准教授



声なき者の声を代弁・発信し、平和的で多様性が共存する世界を目指す。

- 外国語学部
- ▼ 企業
- ▼ 渡米
- ▼ 大学院（修士、博士）
- ▼ 研究員
- ▼ 大学教員

移民支援ボランティア活動がターニングポイントに

大学生時代から「マイノリティについて探求したい」という思いがありました。はっきりとしたテーマが決められず、卒業後はIT系商社と外資系弁護士事務所に勤務。同時期に難民支援のボランティア活動を始めました。この難民支援が大きな起点となりました。日本では難民・移民が社会的に認知されていないため、命懸けで日本にやってきた移民はさまざまな問題・災難に直面します。その理不尽な事実を憤りを感じて「移民の国アメリカで、移民問題についてより詳しく学びたい」と渡米を決意。クリティカルな思考と個人の意見が尊重されるアメリカ式の教育に触れ、学ぶことの喜びに目覚めました。そこから博士課程まで進んでいく経緯は、まさに運命に導かれたと言っても過言ではありません。

異文化間対話の重要性を発信

専門は政治科学、国際関係学、

Profile よこつか・しの 東京外国語大学欧米第二課程イタリア語学科卒業後、IT系商社と外資系弁護士事務所に勤務。その後渡米し、オハイオ大学政治科学修士、テラウェア大学国際関係学修士取得。ニュージウム(Newseum)合衆国憲法修正第一条センターに勤務後、マサチューセッツ州立大学ボストン校グローバルガバナンス・ヒューマンセキュリティの紛争解決学部博士課程に進学。2023年10月に熊本大学着任。アメリカ在住中に国際結婚をし、一児の母となる。



Shino YOKOTSUKA

紛争解決学です。この3分野は切っても切り離せない関係にあり、私たちの日常とも密接に結びついています。現在は、アメリカと日本の信教・思想の自由の比較研究に焦点を当て、これらの解釈の違いがマイノリティの人権保護の対応にどのような違いを生じさせているのかを政治科学、紛争解決学の視点から調査研究しています。なかでも紛争解決学は「Better World / よりよい世界になること」を探求する学問です。歴史や宗教などの解釈は関わる人の数だけ存在します。敵対している国々も、両者にとってそれぞれのストーリーがあり、それこそが真実です。しかしその違いがわからないと、何が起きているのかを理解することは難しいもの。だからこそ異文化間対話が必要なのです。私は実際に紛争解決学のプラクティショナーとして従事し、メタバースにて異文化間の対話の機会を作っています。

学生には、冒険心や異なる視点を大切にすること、自分の頭で考えて行動することを強く呼びかけています。これは民主主義社会

にとって非常に重要なことなのです。人々が考える力をなくし、権力者の言うことだけを聞くようになると、ファシズムのように独裁者が社会をコントロールしていく可能性が高まります。だからこそ学生には国際社会で通用するクリティカルシンキングのスキルを身につけ、同調圧力に負けず自分の心からの声を世界に発信していける人になってほしいと願っています。

ワークライフバランスやセルフケアは自身や周囲のためにも必要

アメリカで博士課程に進む際、莫大な仕事量・研究量に押しつぶされそうになることが何度もあり、その度にセルフケアの大切さを痛感しました。すべての研究に言えることですが、平和や紛争についての研究に「ここで終わり」というものはありません。一方で、自分の人生を大切にしながら、周囲を助け社会に貢献していくためにもワークライフバランスやセルフケアは必要不可欠です。そういった点でも、比較的自分自身で時間をコントロールしながら

進めることができる大学教員・研究職は、私のようなワーキングマザーにとってはドリームジョブだと思っています。

熊本に赴任してまだ間もないのですが、自然豊かなこの地での子育ても楽しもうと思っています。また、私自身が母親になったことで「この子どもたちが安心して生きることができる平和な社会・世界を残したい」とより強く思うようになりました。そんな世界を実現するために、研究を通して声なき者の声を代弁・発信し、紛争解決学のスペシャリストとして社会的憎悪や分断を多様性が共存する平和な環境に変えていくことを目標にしています。



Shino YOKOTSUKA

気分転換・リフレッシュ法

自然いっぱいの場所でのハイキング。アメリカ在住時にはバージニア州・シェナンドア国立公園によく行っていました。家族と愛犬のトイプードルと一緒に阿蘇を散策してみたいです。

Column